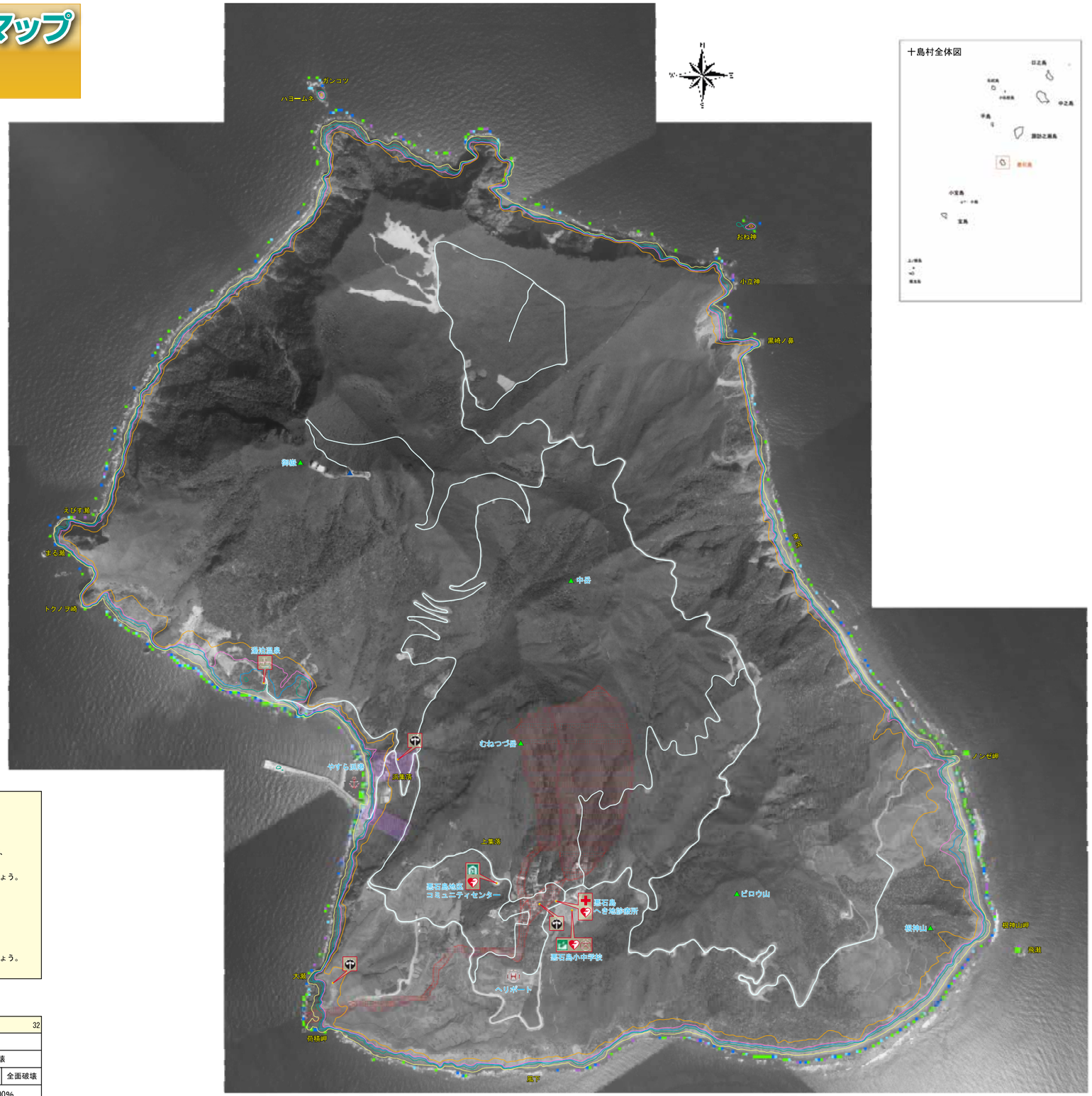
津波・地震ハザードマップ
悪石島



凡例

- 津波避難場所
- 避難所（建物）
- 診療所
- AED
- 海水浴場
- 山岳
- 鍾乳洞
- 学校
- 空港
- 灯台
- 港
- 温泉
- 展望台・展望所
- 天文台
- 主要な建物
- ヘリポート
- 中継局
- 親局
- 拡声子局
- 道路網図
- 38.2m等高線－「1896年の明治三陸津波の最大遡上高」

等高線高度

- 5
- 10
- 15
- 20

危険箇所データ

危険箇所種類

- 土石流危険渓流
- 急傾斜地崩壊危険箇所

⑦南海トラフ（ケース5）最大浸水深

- 0m以上～0.5m未満
- 0.5m以上～1m未満
- 1m以上～2m未満
- 2m以上～3m未満
- 3m以上～4m未満
- 4m以上～5m未満
- 5m以上～10m未満

十島村全体図

●悪石島避難場所一覧

名　称	指定緊急避難場所 地震・津波（一時避難）	指定避難所	標高（m）
悪石島地区コミュニティセンター	―	○	167
悪石島小中学校	○	○	177

○指定緊急避難場所：災害が発生し、又は発生するおそれがある場合にその危険から逃れるための避難場所
○指定避難所：災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまでに必要な間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設

●地震時の心得

地震が起こる前

- 家庭で防災会議を開き避難場所・避難路・家族との連絡方法などを確認しましょう。
- 備蓄品を備えておきましょう。（目安として10日間程度の水や食料）
- 非常持出袋を準備し、すぐ持出せるところに置きましょう。
- 昭和56年以前に建てられた建物は、古い耐震基準で建てられているので、耐震診断を受けましょう。
- タンス・本棚は金具で固定しましょう。
- 逃げ道に家具が倒れないように家具は配置しましょう。

揺れが収まったら

- あわてず周囲を確認し、身の安全を確保しましょう。
- 電気のブレーカーを切りましょう。
- ガスの元栓を閉めましょう。

避難する時

- 屋外ではブロック塀の倒壊や割れたガラスの落下に気をつけましょう。
- 高齢者や妊婦、体の不自由な方への声かけや心遣いを行い、地域ぐるみで助け合いましょう。
- 車で避難すると渋滞し、消防・救急活動の支障になりかねないので原則徒歩で移動しましょう。

●土砂災害注意点

土砂災害警戒情報	発表前	・お住まい付近の「土砂災害危険箇所」の確認をする。 ・事前に家庭で避難場所の確認をする。 ・大雨・長雨のとき、土砂災害警戒情報に注意する。
	発表後	・土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する。 ・大雨のとき、危険な箇所に近寄らない。

●雨の降り方の注意点

1時間雨量	予報用語	注意事項
10～20mm	やや強い雨	・長く降り続くときは注意が必要。
20～30mm	強い雨	・小規模のがけ崩れが始まる。
30～50mm	激しい雨	・山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要、下水道から雨水があふれる。
50～80mm	非常に激しい雨	・地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。 ・マンホールからは水が噴出す。 ・土石流がおこりやすく、多くの火災が発生する。
80mm以上	猛烈な雨	・大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

●震度と揺れの状況

- 気象庁 HP より参照 -

震　度	状　況
震度2	・屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。
震度3	・屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
震度4	・ほとんどの人が驚く。 ・電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ・座りの悪い置物が、倒れることがある。
震度5弱	・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ・棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 ・固定していない家具が移動することがあり不安定なものは倒れることがある。
震度5強	・物につかまらないと歩くことが難しい。 ・棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。 ・固定していない家具が倒れることがある。 ・補強されていないブロック塀の多くが崩れることがある。
震度6弱	・立っていることが困難になる。 ・固定していない家具の多くが移動、倒れるものもある。 ・開かなくなるドアが多い。 ・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ・耐震性の低い木造住宅では、瓦が落下したり、建物が傾いたり・倒れたりすることがある。
震度6強	・はわないと動くことができない。 飛ばされることもある。 ・固定していない重い家具のほとんどが移動、倒れるものが多くなる。 ・耐震性の低い木造住宅では、建物が傾くものや・倒れるものが多くなる。 ・大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
震度7	・耐震性の低い木造住宅では、建物が傾くものや・倒れるものがさらに多くなる。 ・耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがある。 ・耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

●津波警報・注意報が出たら

- 強い揺れや弱くても長時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、急いで安全な場所へ避難しましょう。
- 津波のスピードは速いので、 より高い場所へ避難しましょう。
- 引き潮が起こらない津波もあります。津波警報が発表されたときは、急いで安全な場所へ避難しましょう。
- 津波は何度も繰り返し襲ってきます。波が落ち着くまで注意しましょう。
- 海上では、船舶は無線などの情報で速やかに行動しましょう。
- 満潮の時は、水位が高くなっているので、被害が大きくなります。
- 車での避難は、渋滞に巻き込まれる場合があるので避けて下さい。なるべく徒歩で避難するようにしましょう。
- 津波は河川を遡上します、河川には絶対に近づかないようにしましょう。

●津波波高と被害程度（首藤（1993）を改変）

津波波高（m）	1	2	4	8	16	32
木造家屋	部分的破壊	全面破壊				
石造家屋	持ちこたえる			全面破壊		
鉄筋コンクリートビル	持ちこたえる				全面破壊	
漁船		被害発生	被害率50%	被害率100%		
防潮林	被害軽微 津波軽減	漂流物阻止	部分的被害 漂流物阻止	全面的被害 無効果		
養殖筏	被害発生					

※津波波高（m）は、船舶、養殖筏など海上にあるものに対しては概ね海岸線における津波の高さ、家屋や防潮林など陸上にあるものに関しては地面から測った浸水深となっています。
※上表は津波の高さと被害の関係の一応の目安を示したもので、それぞれの沿岸の状況によっては、同じ津波の高さでも被害の状況が大きく異なることがあります。
※津波による音の発生については、周期5分～10分程度の近地津波に対してのみ適用可能です。